

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 飯塚市立二瀬中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年 322名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間・道徳科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	【総合的な学習の時間】 横内昭展氏が、中高生時代から、プロ、そして指導者として、どのようにキャリアを積んできたか、また今後、日本代表監督としての世界を相手にした戦いの中で、どのようにプレッシャーと向き合っていくか、をテーマとした講演を聞くことを通して、これからのグローバル社会の中で、自ら進んで行動しようとする態度を育成する。 【道徳1】(国際パラ委員会公認教材『I 'mPOSSIBLE』) ・車いすのパラリンピアンに日常生活に思いを巡らせることにより、バリアフリーのあり方を考える。 ・障がいの有無に関わらず、他者に対する先入観に気づき、相手との違いを知り、対話を尊重することの大切さを学ぶ。そして、学習したことをもとに自分の行動に移すことができるようになる。 【道徳2】(国際パラ委員会公認教材『I 'mPOSSIBLE』) ・パラリンピアン活躍の様子や結果、記録を出すための努力を知り、東京2020パラリンピックでの活躍を願って、選手の魅力を伝えるコマーシャル(CM)企画書を作る。その活動を通して、パラリンピックを身近に感じ、興味を深める。
5 取組内容	○事前学習 12月2日(水) 道徳にて 池江璃花子選手の動画を活用し、オリンピックへの関心を高める。 ○実践 12月14日(月) 13:45~各学級にて、動画を鑑賞(日本サッカー協会より) 14:00~講演会開始(Zoom) 内容: (前半) ○現在の日本代表での役職など自己紹介 ・出身地など

- 自分自身のサッカーとの出会い
 - ・サッカーを始めたきっかけは？
 - ・小学生の頃はどんな生徒だった？
- 中学生の話
 - ・サッカーや勉強に取り組んだことなど。
 - ・将来の目標はなんだった？
- 進路選択
 - ・高校時代もサッカーを続ける。
 - ・進路はどう決めた？
 - ・大学に行く選択肢はあった？
- 選手として（マツダ SC、プロ契約、サンフレッチェ広島）
 - ・影響を受けた人は？
 - ・恩師に言われて印象に残っている言葉は？
 - ・やめたいと思ったことは？何があったから頑張れた？
- 現役引退、コーチとしてのキャリアを選択
 - ・なぜ指導者の道を？
- （後半）
- サッカー日本代表のコーチとして
 - ・カタールワールドカップを目指す日本代表。
 - ・コーチって何をするの？
- コーチとして、一番大事にしていることは？
 - ・東京オリンピック代表（U-24 日本代表）の監督代行として
 - ・東京オリンピック世代ってどんな選手がいるの？
どんなチーム？
- オリンピック・パラリンピックについて思うこと
 - ・日本開催について
- オリンピックという国際舞台で活躍する選手たちのこと
 - ・この3年間で一番印象に残っていることは？
 - ・多くの選手を見てきて「伸びる」選手の特長は？
 - ・代表選手に選ばれている人は何がすごい？
 - ・選手たちのどんな姿を見てもらいたい？
- オリンピックにかける意気込みや目標
- （質疑応答）
- ケガをして約2年出場できなかった時に、どのように乗り越えたか
オフト監督とのコミュニケーションをどのように図ったか
選手を選ぶ時にどのような視点で選ぶか
- （最後に）
- 東京オリンピック世代の選手たちが企画・制作した映像（Ready for the future）を視聴。
- 事後学習
- 【道徳】 1月27日（水）
（国際パラ委員会公認教材『I 'mPOSSIBLE』より）
「パラリンピックの日常生活からバリアフリーを考える。」
- 【道徳】 2月 3日（水）
（国際パラ委員会公認教材『I 'mPOSSIBLE』より）
「パラリンピアンの魅力に迫ろう！」

<p>6 主な成果</p>	<p>生徒の感想より（横内氏の講演を終えて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたってサッカーをやめたいとか、嫌いと思うことなく続けている姿に、私も見習わなくてはならないと思いました。 ・後悔をしないように、一日一日を大事にすることが印象に残りました ・選手を選ぶときに、技術はもちろんだけど「自立できる人」を選んでいると聞き、私も自分で考え、自立したいと思いました。 ・約2年間サッカーができなかった時期があっても、「やめたい」じゃなく「今すぐやりたい」という気持ちから、本当にサッカーが好きなんだと分かりました。 ・自分は吹奏楽部に入っているのですが、お話を聞いて、本当に基礎が大切なんだと気づかされました。 ・「迷いがなかった」という言葉に驚きました。また、〇〇一筋！というほど熱中することが見つからないので、目の前にある一つ一つを一生懸命に努力していきます！
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が関東で増加傾向であったため、Zoomによる講演会を実施した。9月に行われた合唱コンクールでも、体育館での合唱を各教室に配信して実施しており、日本サッカー協会の方が有料版をお持ちだったので、時間制限もなく約1時間の講演会を実施することができた。また、横内氏の要望により、生徒たちの姿も見ながら講演を行いたいということで、画面には各教室の生徒たちの姿を映して実施した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>本来であれば、実際にご来校いただき、講演を行っていただくことが一番であるが、仮にご来校いただいたとしても、全校生徒を体育館に集合させることが難しいことが予想されるため、やはりZoomの活用が必要だと考えられる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本校では、本物の外部人材の活用を教育課程編成の基本方針としており、次年度以降も外部講師の活用を検討していきたい。</p> <p>また、道徳で実践した（国際パラ委員会公認教材『I ‘mPOSSIBLE』より）は「他者理解」「共生社会」の単元でも、次年度以降も内容を工夫しながらの実施を検討していく。</p>